

住商混在地域における児童の地域認識に関する研究 —東京都大田区大森北地区の児童の「お気に入りの場所」について—

日本大学 学生会員 ○ 森 紗耶

日本大学 正会員 横内 憲久

日本大学 正会員 岡田 智秀

日本大学 非会員 関根 博史

1. 研究目的—我が国の小学校などの義務教育機関において、まちづくり教育が行われるようになり、国土交通も推進している^{*}。しかし、山や河川といった地域資源に乏しい一般的な市街地では地域資源が見落とされがちなこともあり、そうした成果の蓄積が課題となっている。そこで本研究では、一般的な市街地である東京都大田区大森北地区と、この地区の中心に位置する大田区立入新井第一小学校の第6学年を対象とし、一般的な市街地に対する児童の地域認識を明らかにすることを目的とする。

本校は JR 大森駅に近接した小学校であり、周辺は商店が広がる中に住宅地が点在する住商混在地域である(図1)。この地区は、大型店舗が複数進出する中にあっても、地区内の中心的な商店街「ミルパ」は大型店舗の負の影響を受けず、全店舗が営業を展開しているという現状にある。

2. 調査概要—本研究では、上述した“商業のまち”で暮らしを営む児童を対象に、地元地域に対する愛着やお気に入りの場所といった児童の目線で捉えた地域の魅力を明

らかにするためにワークショップ(以下、WS)を実施した。

このWS形式を採用した理由として、1対1のアンケート形式では特に見慣れているまちの魅力には気がつきにくいことに加え、話し合いによる魅力要素の共有が重要であるとの考えから、児童間の意見交換による気づきの誘発を図るためである。当WSは、第6学年全95人を対象に、図1のような居住地区ごとに9班を構成して、表1に示す全3回のプログラムを大学生が中心となり展開した。そこで本稿では第1回目のWS成果である、児童らが「お気に入りの○○」として評価する現地の空間や店舗等の特徴について考察を行う。

3. 結果および考察—「お気に入りの○○」と題して、班ごとに話し合った結果のうち、時間の制約上このテーマについて議論できなかった1つの班を除く全8班において、意見の合計数が多かった第1位から第5位までの全10項目を示したものが表2である。これより、第1位は、全8班が共通して挙げた地区の中心的な商店街「ミルパ(大森銀座商店街)」(写真1)であった。理由は、全8班中6班が「酉の市」(写真2)を挙げている。これは毎年暮れに実施される商売繁盛を願う祭事であり、ミルパの通りにある鷲神社を拠点に、境内では熊手販売や獅子舞等が行われ、商店街では夜店が連なるなど、当地区が最も賑わう一大祭事

表1 ワークショップの概要

WS 1	日時	2015年(平成27年) 6月8日(月) 8:45~10:20(1~2時間目)
	場所	大田区立入新井第一小学校 第6学年教室および体育館
	参加者	第6学年95名、同・担任3名、日大理工学生9名、同・教員1名
WS 2	日時	2015年(平成27年) 6月16日(火) 10:40~12:15(3~4時間目)
	場所	大田区立入新井第一小学校およびその周辺地域
	参加者	第6学年95名、同・担任3名、日大理工学生9名、同・教員1名
WS 3	日時	2015年(平成27年) 6月30日(火) 10:40~12:15(3~4時間目)
	場所	大田区立入新井第一小学校 第6学年教室
	参加者	第6学年95名、同・担任3名、日大理工学生3名、同・教員1名
プログラム		小学生が撮影したまちの魅力写真のトレース作業(まち歩きマップ作成のため)



第1回WS 魅力抽出作業



第2回WS まち歩き



第3回WS トレース作業

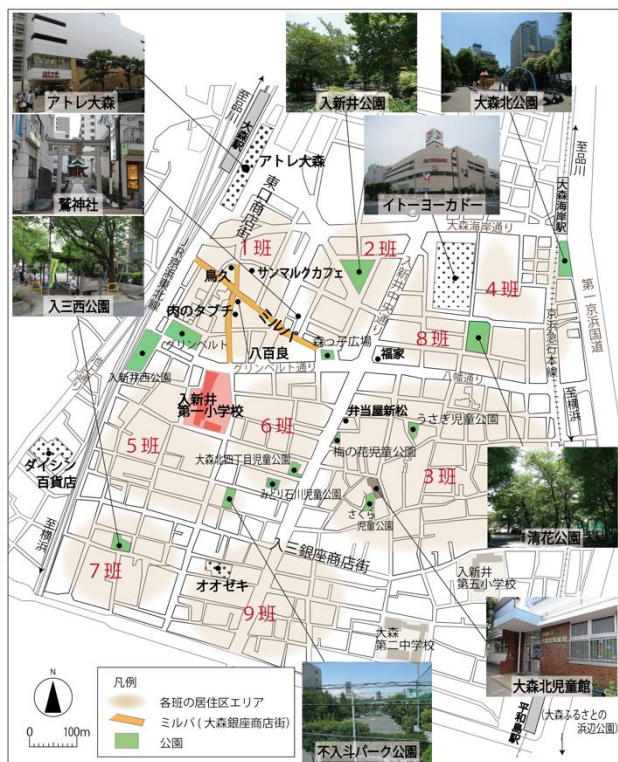


図1 WSにおいて構成した各班の分布と対象地区の現況

キーワード 児童, 地域認識, 住商混在地域, ワークショップ

連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部まちづくり工学科 岡田研究室 TEL 03-3259-0484

である。第2位は「イトーヨーカドー」という大型店舗であった。理由は「品揃えの良さ」が最も多く挙げられ、これは第5位の「アトレ大森(駅ビル)」「オオゼキ(大型スーパー)」「ダイシン百貨店」などの大型店舗にも共通する。これより児童は、自らの買い物行動に対する利便性を地元のお気に入りとして評価する傾向が捉えられた。そこで、こうした大型店舗と児童らの居住地との距離関係をみると、すべての大型店舗において一般的な徒歩圏である500mより遠方に居住する児童からも評価されていることがわかる。一方、児童らが評価した商業店舗は全23件にのぼったが、この中で個人商店がお気に入りとして挙げられた数は、表3に示すように、僅か5件足らずであった。その僅かに挙げられた個人商店の評価理由は味の良さに加え、飴やおまけをくれるといった店主のサービスを挙げている。これらの個人商店と児童らの居住地との関係をみると大部分が300m圏内であり、上述した大型店舗よりかなり近接しているのが特徴である。次に「お気に入りの〇〇」(表2)で挙げられている「遊び場」について着目すると、上位の品揃えの良さが評価されている大型店舗より位置づけが低く、第5位において「大森北児童館」と「大森ふるさとの浜辺公園」が挙げられている。前者は屋内であり遊びの多様性が評価されていることや学区域境であり他校との交流を深められることが評価されている。後者では学区域外であるにも関わらず近隣の公園にはない大きな遊具と大森の特産である海苔の製造を体験できることが評価されている。このことから、上位10項目の中で遊び場は、2ヶ所しか挙げられておらず、児童たちは身近な遊び場よりも“商業のまち”ゆえに、効率良く買い物ができる大型店舗や、「酉の市」における商店街の賑わいをお気に入りとしている実態が明らかとなった。

4. まとめ—以上より、入新井第一小学校第6学年の児童が認識する「大森のお気に入り」は、公園等の典型的な遊び場ではなく、「大型店舗の品揃え」や「酉の市(祭事)」であった。その要因として、児童らは、自らの買い物体験を通じた“品揃えの良さ”という大型店舗の利便性や多数の夜店が出揃う「酉の市」の商店街の賑わいをお気に入りとして見出している一方、個人商店と児童の関わりが希薄である実態が促えられた。しかし、大森北地区を特徴付けているのは「酉の市」をはじめとする様々な年間行事であり、この年間行事を支えているのは個人商店である。そうした中で、少数ながらも居住地区から300m圏内において個人商店の魅力について気づいている班も見られた。このこと

表2 「お気に入りの〇〇」の上位10項目

順位	場所の名称	班の合計数	班(距離)	お気に入りの理由(複数回答)	班の合計数
1位	ミルバ (大森銀座商店街)	8班	1 (60m)	酉の市が楽しい(驚神社含む)	6班
			3 (520m)	CMの撮影場所として利用される	3班
			4 (470m)	お店がたくさんある	1班
			5 (370m)	森っ子フェスティバルでブラスバンド実施	1班
			6 (240m)		
			7 (590m)		
			8 (470m)		
			9 (610m)		
			1 (440m)	品揃えが良い	3班
2位	イトーヨーカドー	6班	4 (70m)	行きやすい	1班
			5 (690m)	親と一緒に遊べる	1班
			7 (880m)	買い物をする	1班
			8 (140m)	涼しい	1班
			9 (760m)		
3位	サンマルクカフェ	4班	4 (510m)	食べ物美味しい	2班
			5 (430m)	落ち着く	1班
			8 (470m)	外から中が見える	1班
	100円ショップ ブッチ	4班	9 (770m)		
			6 (330m)	お菓子が安い	3班
5位	アトレ大森 (駅ビル)	3班	7 (590m)	品揃えが良い	1班
			8 (650m)	駄菓子が美味しい	1班
			9 (630m)		
	オオゼキ (大型スーパー)	3班	6 (560m)	クリスマスクリームドーナツが美味しい	2班
			8 (560m)	品揃えが良い	1班
			9 (900m)	楽しい	1班
	大森駅	3班		広い	1班
			1 (290m)	品揃えが良い	2班
			7 (890m)	お菓子が売っている	1班
	大森北児童館	3班	9 (900m)		
			4 (630m)	お店がたくさんあって便利	2班
			6 (560m)	パン屋がある	1班
	大森ふるさとの 浜辺公園	3班	9 (900m)		
			4 (370m)	他の学校の人も遊ぶ	3班
			6 (230m)	広い	1班
	ダイシン百貨店	3班	9 (340m)	ボール遊びや漫画等、色々楽しめる	1班
				ストレス発散ができる	1班
			5 (1738m)	ローラー滑り台がある	2班
	大森ふるさとの 浜辺公園	3班	7 (1692m)	海苔が有名	2班
			9 (1384m)	静か	1班
				海がある	1班
	ダイシン百貨店	3班		楽しい	1班
			1 (500m)	品揃えが良い	2班
			8 (930m)	足湯がある	1班
			9 (500m)	広い	1班

【注】①内の距離は各班の居住エリアの中心から各指摘場所までの直線距離を意味する

表3 「お気に入りの〇〇」として挙げた個人商店全5店舗

順位	名称	班の合計数	班(距離)	お気に入りの理由(複数回答)	班の合計数
1位	肉のタブチ	2班	1 (70m)	おまけしてくれる	2班
			6 (250m)	飴をくれる	1班
	八百良	2班	1 (90m)	飴をくれる	1班
			6 (220m)	親とよく来る	1班
	鳥久	2班	6 (340m)	唐揚げが美味しい	1班
			9 (680m)	お弁当が美味しい	1班
4位	弁当屋新松	1班	8 (340m)	行列ができるほど美味しい	1班
	福家	1班	4 (260m)	パンが美味しい	1班

【注】①内の距離は各班の居住エリアの中心から各指摘場所までの直線距離を意味する



写真1 ミルバ(大森銀座商店街)



写真2 毎年11月に行われる「酉の市」

を踏まえると、本校で現在実施されている地域学習が地区中心部の「ミルバ」にとどまっているが、今後は学区域全体の個人商店に着目し、各居住地から300m圏内の身近な個人商店を学習対象とし、個人商店が果たす地域への役割や買い物の楽しさ等の理解を促す取り組みが重要となるであろう。

参考文献
※国土交通省都市・地域整備局 景観室編「魅力的な景観まちづくりのために[行政が取り組む景観まちづくり教育の手引き]」(2008年3月)

謝辞 本研究の成果の一部は(一財)都市文化振興財団の景観まちづくり学習助成事業によるものである。